

『第2種放射線取扱主任者試験 マスター・ノート』第1版第1刷(2014年2月20日)に誤りがありました。
ここに慎んでお詫び申し上げますとともに、以下の通り訂正させていただきます。
(下記PDFファイルをご覧ください)

(2018年5月1日 メジカルビュー社編集部)

ページ	該当箇所	誤	正
p.139	「直読式ポケット線量計:電離箱の検出部とローリツェン検電器の小型化」の解説部分	放射線によるハロゲン化銀の活性化潜像核(銀粒子からなる集合体)の生成 ↓ 現像によって、金属銀粒子に還元 ↓ 定着によって、銀イオン除去で金属銀粒子が黒く視覚化	あらかじめ電荷を蓄積した電離箱内に放射線が入射 ↓ 放射線による電離作用によって放電が発生 ↓ 放電により、先端が二股に分かれ金メッキされた水晶に斥力が発生 ↓ 斥力による先端部の移動度を目盛り付き顕微鏡で観測

『第2種放射線取扱主任者試験 マスター・ノート』第1版第1刷(2014年2月20日)に誤りがありました。
ここに慎んでお詫び申し上げますとともに、以下の通り訂正させていただきます。
(下記PDFファイルをご覧ください)

(2015年7月16日 メジカルビュー社編集部)

ページ	該当箇所	誤	正
p.21	本文下から7行目	…始まり ²⁰⁶ Pb(鉛)で終わります。	…始まり ²⁰⁸ Pb(鉛)で終わります。
p.35	本文上から6行目	● 飛程を密度で割り, …	● 飛程に密度を掛け, …
p.49	「正解」上から4行目	(期待原子または…)	(気体原子または…)
p.55	本文上から3行目	…, ²⁰⁹ Bi, …	「 ²⁰⁹ Bi」削除
p.55	本文上から5行目	…, ²⁰⁹ Bi(ビスマス), …	…, ²⁰⁸ Pb(鉛), …
p.57	本文上から9行目	…7回のα壊変…	…8回のα壊変…
p.126	「例題① 解説」	÷ 1.6 × 10 ⁻¹⁹ C(イオン対1個当たりの電荷)	× 1.6 × 10 ⁻¹⁹ C(イオン対1個当たりの電荷)
p.126	「例題② 解説」	2 × 10 ⁻² [C]/1.6 × 10 ⁻¹⁹ …	2 × 10 ⁻² [C/秒]/1.6 × 10 ⁻¹⁹ …
p.127	用語アラカルト	*1 PRガス(Ar:アルゴン) 希ガスの1つ。	*1 PRガス PRガスは「Ar:メタン=9:1」のガス。Arは希ガスの1つ。
p.131	図1下から3行目	電子と正孔を移動します	電子と正孔が移動します
p.142	本文下から3行目	計数率nの $\sigma = \sqrt{\frac{n}{t}} = \sqrt{\frac{N}{t^2}} = \sqrt{\frac{N}{t}}$	計数率nの $\sigma = \sqrt{\frac{n}{t}} = \sqrt{\frac{N}{t^2}} = \frac{\sqrt{N}}{t}$

『第2種放射線取扱主任者試験 マスター・ノート』第1版第1刷(2014年2月20日)に誤りがありました。

ここに慎んでお詫び申し上げますとともに、以下の通り訂正させていただきます。

(下記PDFファイルをご覧ください)

(2015年6月4日 メジカルビュー社編集部)

ページ	該当箇所	誤	正																				
p.9	本文下から1行目	$n \rightarrow p + e + \bar{\nu}$	$n \rightarrow p + e^- + \bar{\nu}$																				
p.13	本文上から5行目	$T_{\frac{1}{2}} = \frac{-\log 2}{\lambda} = \frac{0.693}{\lambda}$	$T_{\frac{1}{2}} = \frac{\log 2}{\lambda} = \frac{0.693}{\lambda}$																				
p.14	本文下から5行目	$N = \frac{A}{\lambda} = \frac{AT_{\frac{1}{2}}}{\ln 2} \dots\dots$	$N = \frac{A}{\lambda} = \frac{AT_{\frac{1}{2}}}{\ln 2} \dots\dots$																				
p.17	本文上から2行目	…娘核は…	…娘核種は…																				
p.28	本文下から2行目	●光電子の断面積は…	●光電効果の断面積は…																				
p.35	本文上から18行目	●荷電流子の阻止能は…	●荷電粒子の阻止能は…																				
p.36	本文上から11行目	ツグピーグといいます。	ツグピークといいます。																				
p.43	本文下から20行目	きい速中性子は…	きい高速中性子は…																				
p.57	本文上から8行目	マス)で終わります。	マス)で終わります[その後の実験でビスマス(²⁰⁹ Bi): 1.9×10 ¹⁹ 年が確認され、最終の壊変生成核種はタリウム205で安定な核種である(アイソトープ手帳第11版より)]。																				
p.57	本文上から12行目	…ではなくビスマスです。	…ではなくタリウム205です。																				
p.111	表1	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">造血システム 末梢血球数</td> <td>0.25~0.5Gy</td> <td>リンパ球一時減少</td> <td rowspan="4">再生不良性貧血</td> </tr> <tr> <td>1~2Gy</td> <td>リンパ球の明確な減少</td> </tr> <tr> <td>3~6Gy</td> <td>造血器障害(骨髄死のリスク)</td> </tr> <tr> <td>7Gy</td> <td>骨髄死(ヒトの場合100%)</td> </tr> </table>	造血システム 末梢血球数	0.25~0.5Gy	リンパ球一時減少	再生不良性貧血	1~2Gy	リンパ球の明確な減少	3~6Gy	造血器障害(骨髄死のリスク)	7Gy	骨髄死(ヒトの場合100%)	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">造血システム 末梢血球数</td> <td>0.25~0.5Gy</td> <td>リンパ球一時減少</td> <td rowspan="4">再生不良性貧血</td> </tr> <tr> <td>1~2Gy</td> <td>リンパ球の明確な減少</td> </tr> <tr> <td>3~6Gy</td> <td>造血器障害(骨髄死のリスク)</td> </tr> <tr> <td>7Gy</td> <td>骨髄死(ヒトの場合100%)</td> </tr> </table>	造血システム 末梢血球数	0.25~0.5Gy	リンパ球一時減少	再生不良性貧血	1~2Gy	リンパ球の明確な減少	3~6Gy	造血器障害(骨髄死のリスク)	7Gy	骨髄死(ヒトの場合100%)
造血システム 末梢血球数	0.25~0.5Gy	リンパ球一時減少		再生不良性貧血																			
	1~2Gy	リンパ球の明確な減少																					
	3~6Gy	造血器障害(骨髄死のリスク)																					
	7Gy	骨髄死(ヒトの場合100%)																					
造血システム 末梢血球数	0.25~0.5Gy	リンパ球一時減少	再生不良性貧血																				
	1~2Gy	リンパ球の明確な減少																					
	3~6Gy	造血器障害(骨髄死のリスク)																					
	7Gy	骨髄死(ヒトの場合100%)																					
p.246	本文下から15行目	400GBq以下	400GBq以上																				
p.246	本文下から14行目	100TBq以下	100TBq以上																				